

滋賀県

「子どもの貧困」対策のための 支援者調査結果報告書

概要版

＜支援者の皆さまへ＞



2016年7月

滋賀県・龍谷大学



1 調査概要

(1) 調査の目的

「子どもの貧困」に対応できるより良い社会関係の構築を目指し、貧困状況に置かれた子どもの支援者をめぐる現状の課題（とくに支援者間の連携の課題）を明らかにすること。

(2) 調査の設計

■ 調査地域

滋賀県全域

■ 調査対象

子どもへの支援に関わる機関、計 1,478 機関
(右表参照)

※機関でとくに支援に関わっている方 1 名が
無記名で回答。スクールソーシャルワーカー
とスクールカウンセラーは本人が回答。

■ 調査方法

郵送配布・郵送回収

■ 調査時期

平成27年11月9日（月）～11月30日（月）

対象機関	機関数 (対象者数)
市町 母子保健担当課	19
市町 児童家庭福祉担当課	19
市 生活保護担当課	13
市 ひとり親家庭福祉担当課	13
県機関（児相・健康福祉事務所）	6
市町 教育相談センター	17
保育所（認可、認可外）	295
認定こども園	41
幼稚園	158
学童（放課後児童クラブ）	222
子ども関連NPO等	36
地域子育て支援センター	87
小学校	225
中学校	106
高等学校	60
社会福祉協議会	19
少年センター・あすくる	17
SSW	11
SC	81
地域総合センター	33

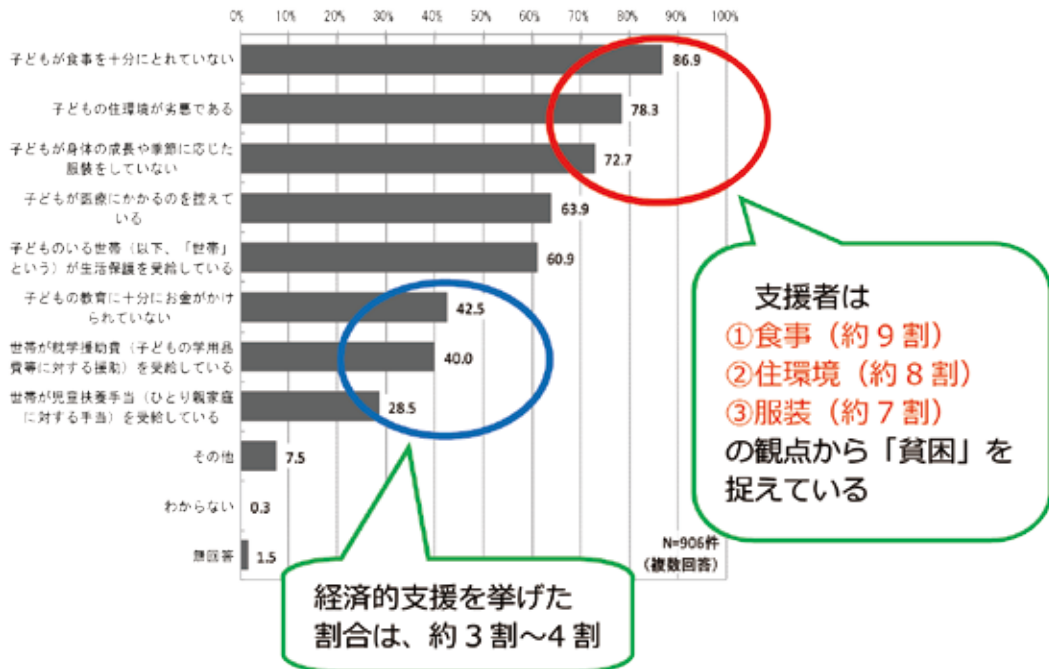
2 主要な調査結果

～主要な調査結果～

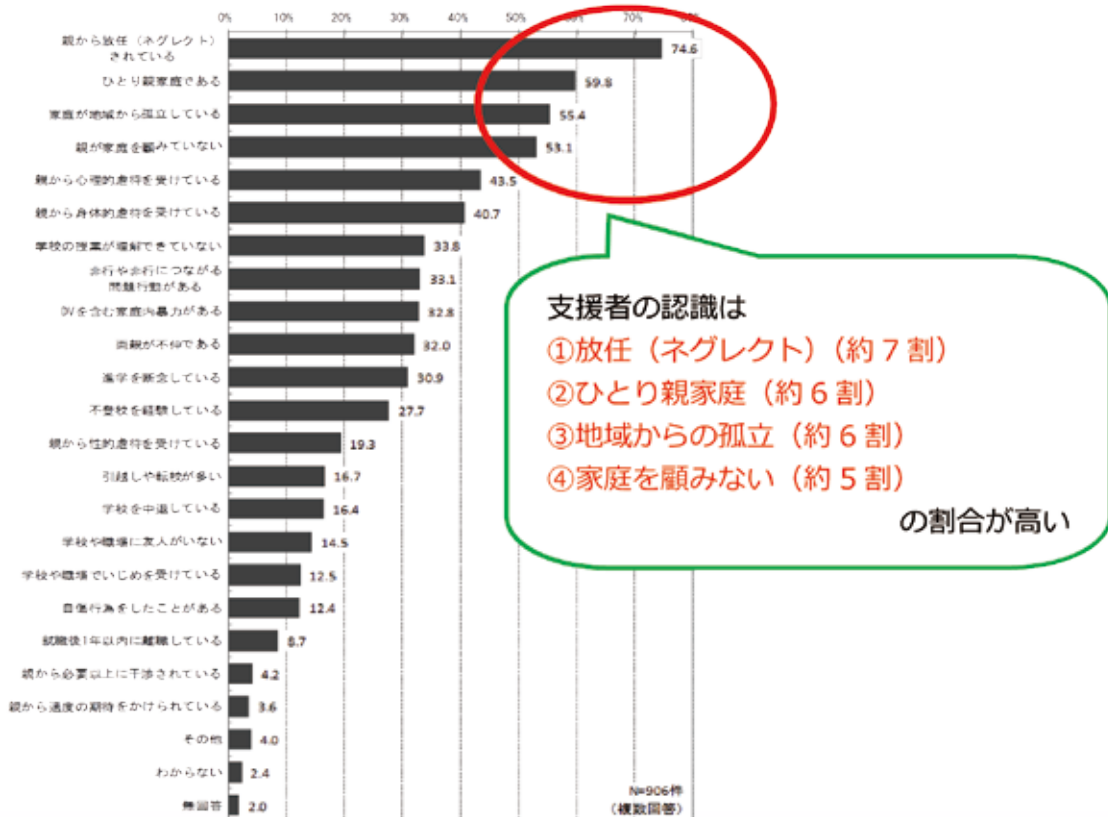
- ① 実際に提供されている支援は「相談」（「来談型」支援）が主流。4割以上の支援者が、「家庭訪問」（「アウトリーチ型」支援）をもっと必要と感じている。
- ② 支援者の約半数が、「保護者との関係性づくり」を困難と感じている。
- ③ 職場内連携しているのは約5～6割、職場外連携しているのは約3～4割の支援者。
- ④ 改善したケースの共通点は、「多職種連携」。

① 「子どもの貧困」に対する支援者の認識

問9. あなたは、どのような状況にある子どもを「貧困状況にある」と考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



問10. これまでのあなたのご経験から見て、貧困状況にある子どもは、併せてどのような状況にあることがよくあるでしょうか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



問11. あなたのこれまでのご経験から見て、貧困状況にある子どもはどのような項目において欠如が見られると思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



支援者は貧困状況の子どもについて

- ①心の状態が不安定 (約8割)
- ②生活習慣が不規則 (約8割)
- ③自己肯定感の低さ (約7割)

があると捉えている

② 実施している支援

問12. あなたの所属する機関では、貧困状況にある子どもや親に対し、どのような支援を行っていますか。次の(a)から(k)について、あてはまる番号に○をそれぞれ1つつけてください。



実施率が高い支援は

- ①相談 (約6割)
- ②学習支援 (約4割)
- ③居場所の提供 (約4割)

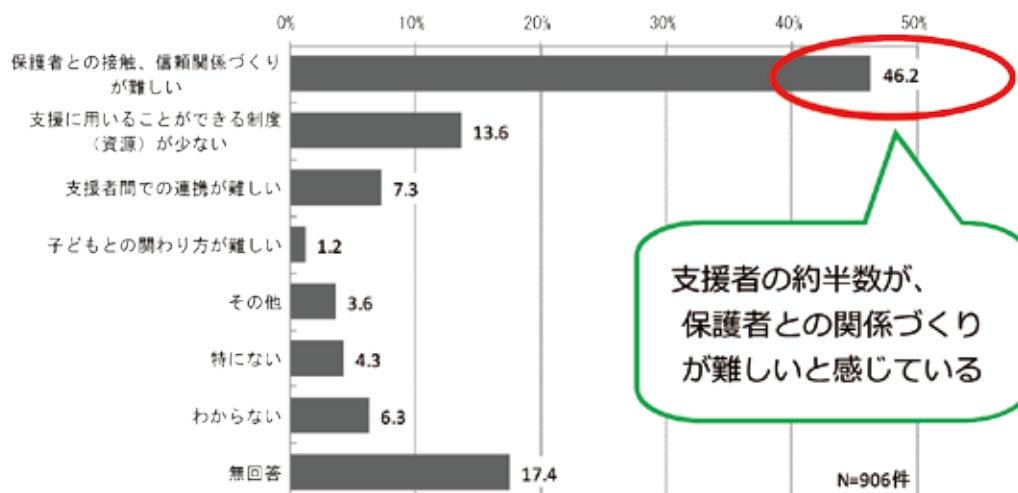
③ 今後に必要な支援

問16. あなたは、（自分が所属する機関で実際に取り組まれている支援いかんにかかわらず）一般的に、貧困状況に置かれた子どもや親に対し、どのような支援がもっと必要だと思いますか。特に必要だと思う番号3つに、○をつけてください。



④ 支援者が抱える困難

問15. あなたは、貧困状況にある家庭への支援にあたって、どのような点が困難だと感じていますか。もっともあてはまる番号1つだけに○をつけてください。

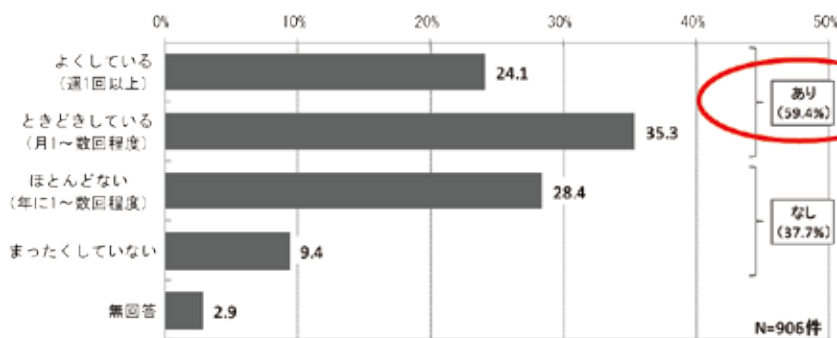


貧困家庭への支援が困難な点—自由記述

- なるべく多く声掛けを心掛けているが、**ほとんど反応がなく無視されてしまう事が多い**。あまり知られたくないとガードしているように思える。まず信頼関係を築きたいと思うが、拒否されるとそれ以上は進めない（保育所）
- 貧困状況にある家庭は、**自ら接触を望むことは少ない**。こちらから接触を試みる場合、相手の心を開かなければ、接していくことが難しい（地域総合センター）
- **貧困以外の要因がある**ため、どこまで園として入り込んで良いのかがわからない（認定子ども園）
- **学校業務の範疇を越えている**（中学校）
- NPOの立場では、貧困の状況、家庭の状況は分かりづらいし、子どもについての他の機関からの**情報共有はない**（子ども関連NPO）

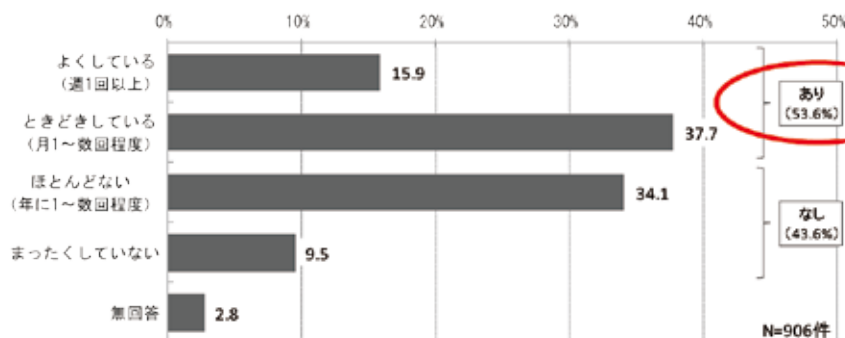
⑤ 支援者間の連携の現状

問20. あなたは、貧困家庭への支援における問題について、困ったり、悩んだりした場合、どれくらいの頻度で職場の人に相談をしていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。



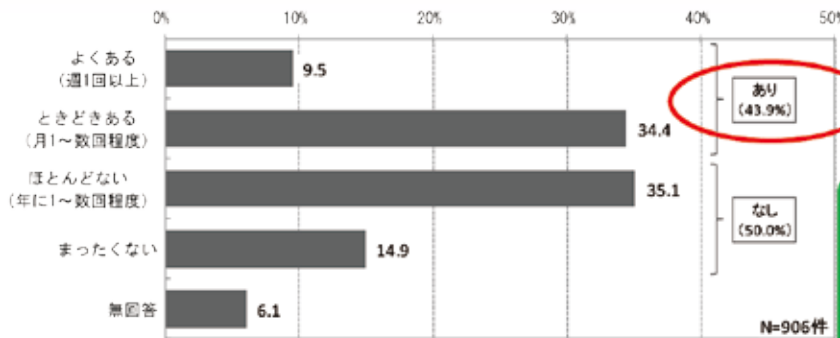
相談しているのは約6割
(約4割が相談していない)

問21. あなたは、貧困家庭への支援における問題について、どれくらいの頻度で職場の人に意見を述べたり、積極的な提案をしたりしていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。



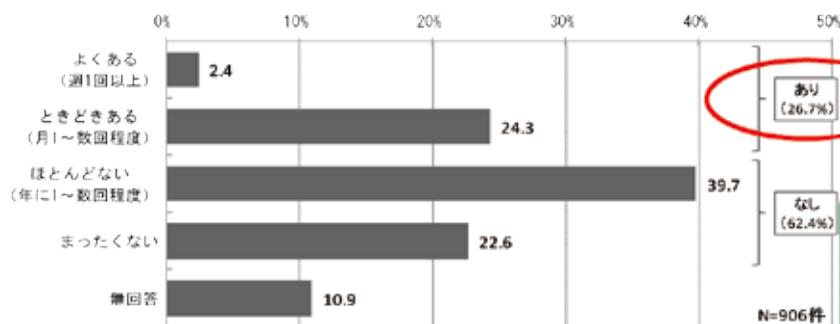
提案しているのは約5割
(約4割が相談していない)

問13. あなたは普段、他の部署・機関のひと、貧困状況にある子どもについて情報をやり取りする機会がありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。



職場外のひとと情報をやり取りしているのは約4割 (約5割がやり取りしていない)

問14. あなたは、他の機関で受けられるサービスを、貧困状況にある家庭に対し紹介することがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。



職場外のサービスを紹介しているのは約3割 (約6割が紹介していない)

⑥ 改善につながった事例

これまでのケースで改善に向かった例—自由記述

- 母が貧困状況にあり、虐待（ネグレクト、暴力）が起き出した頃にケース会議を開いてもらい、問題点を整理して、各専門機関が役割を分担し、連携して取り組んだことで、保護者の生活習慣が整い、体調も良くなって仕事を持てるようになり少し安定した。（幼稚園）
- 父のギャンブルによる借金や、生活費の不足で、食べるものはもとより、電気、ガス、水道が止められた家庭の支援について、子ども家庭相談室（市）、児相との連携（ケース検討会等）を密にした。父との離婚により、医療費（母）と保育料の無償化、社協の食料現物支給でしのいだ。母を応援し、就労（月給）先を見つけ、働き始め、自信を取り戻しそれまで日雇だった母が安定した生活を送っている。（認定こども園）

3 まとめ

本調査によって、「実際の支援」と「支援者が必要と考えている支援」にギャップがあること、支援者の多くが保護者との関係づくりを困難と考えていること、支援者同士の連携による成功例がありつつも職場内・職場外連携は十分には浸透していないこと等が明らかになりました。滋賀県の「子どもの貧困」をめぐる支援者のあり方として、今後は、アウトリーチ型の支援の強化や、悩みを共有できる職場環境づくり、多職種連携の推進等が課題といえます。



■ 研究主体

「滋賀県・龍谷大学共同研究 調査研究チーム」

山田 容（龍谷大学社会学部現代福祉学科：研究代表）

笠井 賢紀（龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科：聞き取り調査担当）

三谷はるよ（龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科：アンケート担当）

馬場 文（滋賀県立大学人間看護学部：聞き取り調査担当）

久保 宏子（元滋賀県東近江健康福祉センター家庭相談員：調査協力）

協力：滋賀県社会福祉協議会

アンケート調査委託：地域未来研究所